



CMIC

Pharmaceutical Value Creator

# 第33回 定時株主総会 招集ご通知

日時 | 平成29年12月15日（金曜日）午前10時

場所 | 東京都港区白金台一丁目1番1号  
八芳園 本館1階 ジュール

## 目次

第33回定時株主総会招集ご通知	2
株主総会参考書類	5
(添付書類)	
事業報告	13
連結計算書類および計算書類	38
監査報告	44

シミックホールディングス株式会社

証券コード：2309

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、日頃より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

第33回定時株主総会招集ご通知をお届けするに当たり、ご挨拶申し上げます。

現在、政府による医療費抑制策の推進など医薬品業界を取り巻く環境が大きく変化し、製薬ビジネスモデルは革命的な転換や多様化が求められています。

事業環境が大きく変動する中、当社グループが持続的な成長の実現を目指し平成26年10月より取り組んでいる「Project Phoenix（プロジェクト フェニックス）」は、おかげさまで順調に進捗しております。当事業年度は、迅速に事業変革を推進するための組織再編や人財教育の実施、そしてCMIC独自の事業モデル“Pharmaceutical Value Creator (PVC)”を活用した包括的なサービスの提供に注力してまいりました。業績につきましては、売上高は65,282百万円（前連結会計年度比5.2%増）、営業利益は3,897百万円（前連結会計年度比15.9%増）を達成することができました。配当金につきましては、期末配当金として1株当たり22円50銭（うち創業25周年記念配当2円50銭）とさせていただきます。これにより、既に実施いたしました中間配当金（1株当たり5円）と合わせて年間の配当額は、1株当たり27円50銭となり、前事業年度より11円50銭の増配となります。

「既成概念にとらわれることなく、常に革新的な発想で前例のないことに挑戦する」その想いで日本初のCROを創業し、25年にわたり常に新しいことへチャレンジすることで道を切り拓き、幅広く事業を展開してまいりました。これからも、ヘルスケア分野に革新をもたらす新しい価値を創出すべく、役職員一同全力を尽くしていく所存です。これまでのお引き立てに感謝するとともに、株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



平成29年12月  
代表取締役CEO  
中村 和男

## 第33回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第33回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面又はインターネットにより議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討の上、議決権を行使していただきますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1 日 時	平成29年12月15日（金曜日）午前10時
2 場 所	東京都港区白金台一丁目1番1号 八芳園 本館1階 ジュール (末尾の「株主総会会場ご案内図」をご参照ください)
3 目的事項	<b>報告事項</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>第33期（平成28年10月1日から平成29年9月30日まで）事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件</li> <li>第33期（平成28年10月1日から平成29年9月30日まで）計算書類報告の件</li> </ol> <b>決議事項</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>第1号議案 取締役12名選任の件</li> <li>第2号議案 監査役1名選任の件</li> </ol>
4 代理人による議決権の行使について	代理人により議決権を行使される場合は、議決権を有する他の株主の方1名を代理人として株主総会にご出席いただけます。ただし、代理権を証明する書面のご提出が必要となりますのでご了承ください。
5 議決権の行使等についてのご案内	3ページに記載の【議決権行使等についてのご案内】をご参照ください。
6 インターネット開示に関する事項	本株主総会招集ご通知に際して提供すべき書類のうち、連結注記表及び個別注記表につきましては、法令及び定款第14条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイトに掲載しておりますので、本招集ご通知の添付書類には記載していません。したがって、本招集ご通知の添付書類は、監査報告を作成するに際し、監査役及び会計監査人が監査をした書類の一部であります。

以 上

当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

なお、株主総会参考書類並びに事業報告、計算書類及び連結計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト（アドレス <https://www.cmicgroup.com>）に掲載させていただきます。

**当社ウェブサイト (<https://www.cmicgroup.com>)**

# 議決権行使等についてのご案内

議決権は、以下の3つの方法により行使いただくことができます。

## 株主総会にご出席される場合

---



議決権行使書用紙を**会場受付にご提出**ください。（ご捺印は不要です）

**日時** 平成**29**年**12**月**15**日（金曜日）**午前10時**

**場所** 東京都港区白金台一丁目1番1号  
**八芳園 本館1階 ジュール**  
（末尾の「株主総会会場ご案内図」をご参照ください）

## 郵送で議決権を行使される場合

---



同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示のうえ、切手を貼らずにご投函ください。

**行使期限** 平成**29**年**12**月**14**日（木曜日）**午後5時30分到着分まで**

## インターネットで議決権を行使される場合

---



当社指定の議決権行使ウェブサイト（<http://www.it-soukai.com/>）にアクセスしていただき、同封の議決権行使書用紙に表示された「議決権行使コード」及び「パスワード」にてログインしていただき、画面の案内に従って、議案に対する賛否をご入力ください。

**行使期限** 平成**29**年**12**月**14**日（木曜日）**午後5時30分まで**

## 1. インターネットによる議決権行使について

- (1) 書面による議決権行使に代えて、当社指定の「議決権行使ウェブサイト」（下記URL）にて議決権を行使可能です。ご希望の方は、同封の議決権行使書用紙右片に記載の議決権行使コード及びパスワードにてログインしていただき、画面の案内に従って入力ください。なお、セキュリティ確保のため、初回ログインの際にパスワードを変更いただく必要があります。

<http://www.it-soukai.com/>

- (2) 行使期限は平成29年12月14日（木曜日）午後5時30分です。お早目の行使をお願いいたします。
- (3) 書面とインターネットによる議決権行使を重複して行使された場合は、インターネットによるものを有効とします。インターネットにて複数回行使された場合は、最後に行われたものを有効とします。
- (4) パスワード（株主様に変更されたものを含みます）は今回の総会のみ有効です。次回の株主総会時は新たに発行いたします。
- (5) インターネット接続に係る費用は株主様のご負担となります。

### （ご注意）

- ・パスワードは、ご投票される方がご本人であることを確認する手段です。なお、パスワードは当社からお尋ねすることはありません。
- ・パスワードは、一定回数以上間違えるとロックされ使用できなくなります。ロックされた場合、画面の案内に従ってお手続きください。
- ・議決権行使ウェブサイトは、一般的なインターネット接続機器にて動作確認を行っておりますが、ご利用の機器によってはご利用いただけない場合があります。

## 2. お問い合わせ先について

ご不明点は、株主名簿管理人である**みずほ信託銀行 証券代行部**（以下）までお問い合わせください。

- (1) 議決権行使ウェブサイトの操作方法等に関する専用お問い合わせ先  
フリーダイヤル **0120-768-524**（平日 午前9時～午後9時）
- (2) 上記以外の株式事務に関するお問い合わせ先  
フリーダイヤル **0120-288-324**（平日 午前9時～午後5時）

以上

## 議決権電子行使プラットフォームについて

機関投資家の皆様につきましては、株式会社ICJが運営する議決権電子行使プラットフォームをご利用いただくことが可能です。

# 株主総会参考書類

## 第1号議案

## 取締役12名選任の件

取締役全員（13名）は、本定時株主総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、新任候補者1名を含む取締役12名（うち社外取締役3名）の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は、次のとおりであります。

候補者 番号	1	再任	社内	所有する当社の株式の数 552,620株	取締役会への出席状況 12/12回（100%）
 な  か  む  ら      か  ず  お <b>中村 和男</b> (昭和21年12月17日生)	<b>【略歴、当社における地位及び担当】</b> 昭和44年 4月 三共株式会社（現 第一三共株式会社） 入社 平成 4年 3月 当社代表取締役社長 就任 平成15年10月 当社代表取締役会長兼社長CEO 就任 平成25年12月 当社代表取締役会長兼社長執行役員CEO 就任（現任）	<b>【取締役候補者とした理由】</b> 中村和男氏は、大手製薬企業において研究開発に従事した後、当社を創業しリーディングカンパニーに導いた優れた経営執行能力を有しております。引き続き経営の意思決定と監督の遂行を期待し、取締役候補者といたしました。			

候補者  
番号 2いのうえ のぶあき  
**井上 伸昭**

(昭和23年11月25日生)

**再任** **社内**所有する当社の株式の数 取締役会への出席状況  
3,900株 12/12回 (100%)**【略歴、当社における地位及び担当】**

昭和49年 4月 富士写真フイルム株式会社 (現 富士フイルム株式会社) 入社  
 平成21年 6月 富士フイルムホールディングス株式会社取締役執行役員 就任  
 平成26年 7月 当社入社 CMOカンパニーシニアアドバイザー 就任  
 平成26年10月 当社常務執行役員 CMOカンパニー長 就任  
 平成26年12月 当社取締役常務執行役員 CMOカンパニー長 就任  
 平成27年 5月 当社取締役専務執行役員 CMOカンパニー長 就任  
 平成28年10月 当社代表取締役副社長執行役員CTO 就任 (現任)

**【取締役候補者とした理由】**

井上伸昭氏は、長年にわたり大手製造企業において、技術関係及び製造の要職を歴任し、経営に関する見識を有しております。引き続き経営の意思決定と監督の遂行を期待し、取締役候補者となりました。

候補者  
番号 3なかむら けいこ  
**中村 圭子**

(昭和32年1月3日生)

**再任** **社内**所有する当社の株式の数 取締役会への出席状況  
148,600株 12/12回 (100%)**【略歴、当社における地位及び担当】**

昭和57年 4月 日経マグローヒル社 (現 日経BP社) 入社  
 平成 元年10月 ジェネンテック株式会社 入社  
 平成 8年 1月 当社入社  
 平成12年 7月 当社取締役 就任  
 平成16年10月 当社取締役副社長 就任  
 平成22年12月 当社代表取締役 就任  
 平成23年 4月 当社代表取締役執行役員 国際事業担当 就任  
 平成25年12月 当社代表取締役副社長執行役員 国際事業開発本部長 就任  
 平成28年10月 当社代表取締役副社長執行役員 CRO事業CEO 国際事業推進本部長 就任 (現任)

**(重要な兼職の状況)**

シミック株式会社 代表取締役会長  
 シミック・シフトゼロ株式会社 代表取締役副社長  
 株式会社アルテミス 代表取締役社長

**【取締役候補者とした理由】**

中村圭子氏は、国際的な企業での豊富な経験を通じ、当社のグローバル化を推進する国際事業開発を担当しており、優れた経営執行能力を有しております。引き続き経営の意思決定と監督の遂行を期待し、取締役候補者となりました。

候補者  
番号 4



もちづき わたる  
**望月 渉**

(昭和36年12月10日生)

**再任** **社内**

所有する当社の株式の数 取締役会への出席状況  
2,500株 12/12回 (100%)

**【略歴、当社における地位及び担当】**

昭和60年 4月 日本油脂株式会社 (現 日油株式会社) 入社  
平成 9年 1月 アライドテレシスホールディングス株式会社 入社  
平成17年 8月 当社入社  
平成22年10月 当社執行役員 内部統制・情報開示・財務経理担当 就任  
平成22年12月 当社取締役 就任  
平成24年10月 当社取締役執行役員CFO 内部統制・情報開示担当 就任  
平成25年10月 当社取締役常務執行役員CFO 財務法務部門・内部統制・情報開示担当 就任  
平成27年 5月 当社取締役専務執行役員CFO 内部統制・情報開示担当 就任 (現任)

**【取締役候補者とした理由】**

望月渉氏は、管理部門における豊富な知見と経験を通じ、優れた経営執行能力を有しております。引き続き経営の意思決定と監督の遂行を期待し、取締役候補者となりました。

候補者  
番号 5



まつかわ まこと  
**松川 誠**

(昭和35年3月30日生)

**再任** **社内**

所有する当社の株式の数 取締役会への出席状況  
1,800株 10/10回 (100%)

**【略歴、当社における地位及び担当】**

昭和59年 4月 株式会社秋山愛生館 (現 株式会社スズケン) 入社  
平成 元年10月 バクスター株式会社 入社  
平成11年 6月 スターバックスコーヒージャパン株式会社 入社  
平成19年 4月 クインタイルズ・トランスナショナル・ジャパン株式会社 入社  
平成24年 1月 当社入社 執行役員 経営企画・IPD担当 就任  
平成24年12月 当社取締役 執行役員 IPDカンパニー長 就任  
平成27年 5月 当社専務執行役員 事業開発担当 就任  
平成28年10月 当社専務執行役員 事業開発担当 CDMO事業CEO 就任 (現任)  
平成28年12月 当社取締役 就任 (現任)

**(重要な兼職の状況)**

シミックCMO株式会社 代表取締役CEO  
シミック・アッシュフィールド株式会社 代表取締役

**【取締役候補者とした理由】**

松川誠氏は、製薬企業のみならず大手サービス業など異業種での事業立ち上げ、マネジメント経験も有しており、当社のグローバル化及び戦略的な事業開発を推進しております。引き続き経営の意思決定と監督の遂行を期待し、取締役候補者となりました。

候補者  
番号 6ふじえだ とおる  
藤枝 徹

(昭和34年11月8日生)

再任 社内

所有する当社の株式の数 取締役会への出席状況  
2,000株 10/10回 (100%)

## 【略歴、当社における地位及び担当】

昭和59年 4月 三共株式会社 (現 第一三共株式会社) 入社  
 平成16年 6月 同社 臨床開発部長 就任  
 平成28年 2月 当社入社 常務執行役員 就任  
 シミック株式会社 取締役副社長執行役員 就任  
 平成28年10月 シミック株式会社 代表取締役社長執行役員 就任 (現任)  
 平成28年12月 当社取締役専務執行役員 就任 (現任)

(重要な兼職の状況)  
 シミック株式会社 代表取締役社長執行役員

## 【取締役候補者とした理由】

藤枝徹氏は、大手製薬企業において臨床開発の豊富な経験とマネジメント経験を有しており、当社のCRO事業を推進しております。引き続き経営の意思決定と監督の遂行を期待し、取締役候補者となりました。

候補者  
番号 7AUVARO PHILIPPE HENRI  
オヴァロ・フィリップ・アンリ

(昭和39年8月24日生)

再任 社内

所有する当社の株式の数 取締役会への出席状況  
1,500株 10/10回 (100%)

## 【略歴、当社における地位及び担当】

平成 3年 4月 ルセル・ユクラフ社 入社  
 平成 7年 9月 日本ヘキスト・マリオン・ルセル株式会社 入社  
 平成16年 8月 サノフィ・アベンティス株式会社 (現 サノフィ株式会社) 入社  
 平成17年 4月 グラクソ・スミスクライン株式会社 入社  
 平成24年 4月 同社 執行役員 ビジネスイノベーション部門長 就任  
 平成26年11月 アスペンジャパン株式会社 代表取締役社長 就任  
 平成28年 7月 当社入社 専務執行役員 就任 (現任)  
 株式会社オーファンパシフィック 代表取締役社長 就任 (現任)  
 平成28年12月 当社取締役 就任 (現任)

(重要な兼職の状況)  
 株式会社オーファンパシフィック 代表取締役社長

## 【取締役候補者とした理由】

オヴァロ・フィリップ・アンリ氏は、大手製薬企業においてコマーシャル部門及び海外関連会社のマネジメント経験を有しており、当社のグローバル化及び新しい事業モデル構築を推進しております。引き続き経営の意思決定と監督の遂行を期待し、取締役候補者となりました。

候補者  
番号 8



はの よしゆき  
**羽野 佳之**

(昭和36年9月8日生)

**再任** **社内**

所有する当社の株式の数 取締役会への出席状況  
1,000株 10/10回 (100%)

**【略歴、当社における地位及び担当】**

昭和60年 4月 アイ・シー・アイファーマ株式会社(現 アストラゼネカ株式会社) 入社  
平成23年 4月 クインタイルズ・トランスナショナル・ジャパン株式会社 入社  
平成24年 5月 当社入社  
平成24年10月 当社執行役員CHO 戦略人事統括部長 就任  
平成25年10月 当社常務執行役員CHO 戦略人事部門担当 就任  
平成28年 4月 当社常務執行役員CHO 人事総務担当 就任  
平成28年12月 当社取締役専務執行役員CHO 人事総務担当 就任(現任)

**【取締役候補者とした理由】**

羽野佳之氏は、大手製薬企業において組織開発を中心に人事関連の経験を豊富に有しており、当社の人事戦略を推進しております。引き続き経営の意思決定と監督の遂行を期待し、取締役候補者となりました。

候補者  
番号 9



みたけ あきひさ  
**三嶽 秋久**

(昭和38年10月24日生)

**新任** **社内**

所有する当社の株式の数 取締役会への出席状況  
23,100株 -

**【略歴、当社における地位及び担当】**

昭和61年 4月 抗体化成工業株式会社(現 大鵬薬品工業株式会社) 入社  
平成 5年 7月 当社入社  
平成20年 4月 CMIC Korea Co., Ltd. 理事副社長 就任  
平成21年11月 当社執行役員 ビジネスデベロップメント本部長 就任  
平成25年 2月 シミックPMS株式会社 代表取締役社長執行役員 就任  
平成26年10月 株式会社シミックバイオリサーチセンター(現 シミックファーマサイエンス株式会社) 代表取締役社長執行役員 就任  
平成27年 5月 当社常務執行役員 就任(現任)  
平成28年10月 サイトサポート・インスティテュート株式会社 代表取締役社長執行役員 就任(現任)

**(重要な兼職の状況)**

サイトサポート・インスティテュート株式会社 代表取締役社長執行役員

**【取締役候補者とした理由】**

三嶽秋久氏は、製薬企業での開発経験を通じ、当社創業初期から長年にわたり数々の役職に従事し、平成20年以降は、当社子会社の要職を歴任し、各担当事業を継続的に成長させてきました。その豊富な当社ビジネスに関する経験、実績に基いた経営の意思決定と監督の遂行を期待し、新たに取締役候補者となりました。

候補者  
番号 10



なかむら あきら  
**中村 明**

(昭和19年12月24日生)

**再任** **社外** 所有する当社の株式の数 取締役会への出席状況  
- 12/12回 (100%)

**【略歴、当社における地位及び担当】**

昭和43年 4月 株式会社三和銀行（現 株式会社三菱東京UFJ銀行） 入社  
平成 6年 6月 同社取締役 就任  
平成 9年 5月 同社常務取締役 就任  
平成11年 6月 三和キャピタル株式会社（現三菱UFJキャピタル株式会社） 代表取締役社長 就任  
平成17年 6月 株式会社ASK PLANNING CENTER取締役会長 就任  
平成17年 7月 株式会社クリーク・アンド・リバー社取締役会長 就任  
平成23年 3月 株式会社メディカル・プリンシプル社代表取締役社長 就任（現任）  
平成26年12月 当社社外取締役 就任（現任）  
平成29年 6月 ASK HOLDINGS株式会社 取締役会長（現任）  
平成29年 6月 ウェルス・マネジメント株式会社 取締役会長（現任）

**（重要な兼職の状況）**

株式会社メディカル・プリンシプル社 代表取締役社長  
ASK HOLDINGS株式会社 取締役会長  
ウェルス・マネジメント株式会社 取締役会長

**【社外取締役候補者とした理由】**

中村明氏は、長年にわたり企業経営に携わり、経営者としての豊富な経験及び見識を有しております。この経験及び見識を活かし、引き続き当社取締役会の意思決定の有効性及び客観性を確保する観点から当社の経営全般への助言及び監督の遂行を期待し、社外取締役候補者となりました。

候補者  
番号 11



こばやし しんじ  
**小林 伸司**

(昭和23年7月31日生)

**再任** **社外** 所有する当社の株式の数 取締役会への出席状況  
- 12/12回 (100%)

**【略歴、当社における地位及び担当】**

昭和47年 4月 伊藤忠商事株式会社 入社  
平成 元年 6月 日本パーキングカード株式会社（現 日本パーキング株式会社） 出向  
代表取締役 就任  
平成 6年 4月 同社代表取締役社長 就任  
平成12年 3月 日本パーキング株式会社代表取締役 就任  
平成23年 5月 同社取締役会長 就任  
平成25年10月 IPI株式会社 代表取締役社長 就任（現任）  
平成27年12月 当社社外取締役 就任（現任）

**（重要な兼職の状況）**

IPI株式会社 代表取締役社長

**【社外取締役候補者とした理由】**

小林伸司氏は、大手商社に入社後、ベンチャー型企業の経営者として成長基盤構築を推進した経験と実績を有しており、優れた経営執行能力を有しております。引き続き当社の経営全般への助言及び監督の遂行を期待し、社外取締役候補者となりました。

候補者  
番号 12

再任

社外

所有する当社の株式の数 取締役会への出席状況  
- 9/10回 (90%)



い わ さ き ま さ る  
**岩崎 甫**

(昭和22年5月3日生)

**【略歴、当社における地位及び担当】**

昭和48年12月 東京大学医学部附属病院第2外科 入局  
昭和58年 4月 山梨医科大学医学部第2外科 入局  
平成 5年 4月 ヘキスト・ジャパン株式会社 入社  
平成17年 1月 グラクソ・スミスライオン株式会社 入社  
平成23年 9月 国立大学法人山梨大学医学部臨床研究講座 特任教授  
平成26年 9月 国立大学法人山梨大学医学部先端応用医学講座 特任教授 (現任)  
平成27年 4月 国立大学法人山梨大学 副学長 (現任)  
平成28年12月 当社社外取締役就任 (現任)

**(重要な兼職の状況)**

国立大学法人山梨大学 副学長  
国立研究開発法人日本医療研究開発機構 プログラムオフィサー  
順天堂大学医学部 客員教授

**【社外取締役候補者とした理由】**

岩崎甫氏は、オンコロジー領域での臨床医の経験の後、大手製薬企業において製品戦略の立案から製品開発まで要職を歴任した経験と実績を有しております。引き続き当社の経営全般への助言及び監督の遂行を期待し、社外取締役候補者としていたしました。

- (注) 1. 各候補者と当社との間には特別の利害関係はありません。
2. 中村明氏、小林伸司氏及び岩崎甫氏は、社外取締役候補者であります。
  3. 中村明氏は、現在、当社の社外取締役であります。社外取締役としての在任期間は本定時株主総会終結の時をもって3年となります。
  4. 小林伸司氏は現在、当社の社外取締役であります。社外取締役としての在任期間は本定時株主総会終結の時をもって2年となります。
  5. 岩崎甫氏は現在、当社の社外取締役であります。社外取締役としての在任期間は本定時株主総会終結の時をもって1年となります。
  6. 当社は、中村明氏、小林伸司氏及び岩崎甫氏との間で、責任限度額を会社法第425条第1項に定める最低責任限度額とする責任限定契約を締結しております。各氏の重任が承認された場合、当社は各氏との間で上記責任限定契約を継続する予定であります。
  7. 当社は、中村明氏、小林伸司氏及び岩崎甫氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。各氏の重任が承認された場合は、当社は引き続き各氏を独立役員とする予定であります。

## 第2号議案

## 監査役1名選任の件

監査体制の強化を図るため、社外監査役1名を増員することといたしたく、監査役1名の選任をお願いするものがあります。なお、本議案に関しましては、監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は、次のとおりであります。

新任	社外	所有する当社の株式の数 —
	<p><b>【略歴、当社における地位】</b>            昭和56年10月 株式会社野村総合研究所 入社            昭和60年 9月 McKinsey &amp; Company 経営コンサルタント            昭和61年10月 Mercury Asset Management, SG Warburg ファンドマネージャー            平成 7年11月 Yamaichi Regent ABC Polska 投資担当取締役執行役員(CIO) 就任            平成10年 7月 Bank for International Settlements (国際決済銀行) 入行            平成16年10月 経済協力推進機構(OECD) 上級年金基金運用担当官            平成20年 3月 Kawai Global Intelligence 代表 就任            平成24年 4月 国立大学法人京都大学高等教育研究開発推進機構 教授            平成25年 4月 国立大学法人京都大学国際高等教育院 教授            平成26年 4月 国立大学法人京都大学大学院 総合生存学館 教授(現任)</p>	
<p>かわい えりこ <b>河合 江理子</b> (昭和33年4月28日生)</p>	<p><b>【重要な兼職の状況】</b>            国立大学法人京都大学大学院 総合生存学館 教授            一般財団法人 未来を創る財団 理事            公益財団法人 グルー・バンクフロフト基金 理事            日興アセットマネジメント 社外取締役</p> <p><b>【社外監査役候補者とした理由】</b>            河合江理子氏は、国際的な企業での豊富な経験に加え、経営者としての経験と実績を有しており、優れた経営に関する知見を有しております。当社における監査の遂行を期待し、新たに社外監査役候補者といたしました。</p>	

- (注) 1. 候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。  
 2. 河合江理子氏は、社外監査役候補者であります。  
 3. 河合江理子氏の選任が承認された場合、当社は同氏との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結する予定であります。なお、当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、会社法第425条第1項に規定する最低責任限度額といたします。  
 4. 河合江理子氏は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員の要件を満たしており、同氏の選任が承認された場合には、独立役員として指定する予定であります。

以上

## 1 企業集団の現況に関する事項

### (1) 当事業年度の事業の状況

#### ① 事業の経過及び成果

当社グループは、製薬企業の付加価値向上に貢献する当社グループ独自の事業モデルであるPVC（Pharmaceutical Value Creator）を展開しております。CRO（医薬品開発支援）事業、CDMO（医薬品製剤開発・製造支援）事業、CSO（医薬品営業支援）事業、ヘルスケア事業において、製薬企業の開発、製造、営業・マーケティングのバリューチェーンを広範に支援しております。また、IPM（Innovative Pharma Model）事業では、当社グループが保有する製造販売業等の許認可とバリューチェーンを組み合わせた新たなソリューションを製薬企業等に提供しております。

医薬品業界におきましては、ジェネリック医薬品の使用の加速化及び長期収載品の薬価引下げ等を通じた社会保障費抑制策の推進により、厳しい事業環境にあります。政府の総合戦略においても、新薬開発型医薬品企業には革新的な医薬品の創出、ジェネリック医薬品企業には安価で高品質な医薬品の安定供給が求められ、将来を見据えた国際競争力のある産業構造への転換が促されています。また、分子レベルの疾患メカニズム解明や診療技術の進展により個別化医療（患者個人に対応した治療）の動きが広がっており、医薬品業界でもがんや難病・希少疾病の分野は個別化医療の発展とともに成長分野として期待されています。一方、高額薬剤の適正使用について議論されるなど、製薬企業には医薬品開発費用の一層の低減化が求められております。科学技術イノベーションの創出に向けた産官学の連携・協力により、新薬開発力強化への取組みが加速するとともに、海外企業による日本市場への参入も増加するなど、開発・製造・販売のスピードアップや効率化を目指したアウトソーシングニーズは、引き続き拡大するものと思われます。

当社グループが属する業界におきましては、このようなアウトソーシングニーズの高まりを受け、企業統合や異業種からの新規参入等の業界再編が進む中、市場規模は中期的に拡大傾向にあります。また、産官学連携を通じた迅速な新薬創出を促進する政策を受け、顧客層はこれまで以上に拡大していくものと見込まれております。

当社グループは、平成27年9月期より「Project Phoenix」（赤字事業の解消及びコスト構造改革の推進を通じて業績V字回復及び持続的成長の実現を図るプロジェクト）に取り組んでおり、当連結会計年度において創業から25周年という節目を迎え、当社グループ各事業領域の基盤や個々のサービスの一層の強化、事業間シナジーの追求及び顧客との連携強化を図るとともに、PVC機能を活用したソリューションビジネスの実現を目指し、新たな取組みを推進しております。

### [売上高及び営業利益]

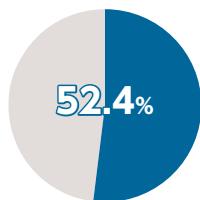
当連結会計年度においては、医療・医薬品産業の変革にスピーディに対応できるソリューションビジネスの推進と、効率経営実現のための組織再編及び人材教育の強化を進めました。当連結会計年度は、堅調な受注を背景にCRO事業及びヘルスケア事業が伸長したこと等により、売上高は65,282百万円（前連結会計年度比5.2%増）、営業利益は3,897百万円（前連結会計年度比15.9%増）となりました。

セグメント別の業績の状況は以下のとおりであります。なお、平成28年10月の組織体制の変更に伴い、シミックキャリア株式会社は、報告セグメントをCSO事業からCRO事業に、シミックホールディングス株式会社で行っているIPM事業の一部業務をCRO事業等に変更しております。セグメント別の業績の前連結会計年度比増減額及び率につきましては、当該変更後の区分に基づいて比較しております。

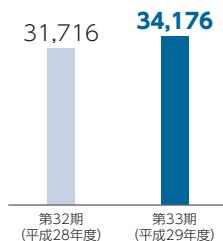
また、当連結会計年度より、事業実態に合わせて、従来「CMO事業」としていた報告セグメントの名称を「CDMO（Contract Development and Manufacturing Organization）事業」に、「IPD事業」としていた報告セグメントの名称を「IPM（Innovative Pharma Model）事業」に変更しております。この変更はセグメント名称の変更であり、セグメント情報に与える影響はありません。

## CRO事業

売上高構成比



売上高 (単位：百万円)



(単位：百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度	増減額 (増減率)
売上高	31,716	34,176	+2,459 (+ 7.8%)
営業利益	5,193	5,844	+651 (+12.5%)

当事業においては、主に製薬企業の医薬品開発支援に係る業務を行っております。

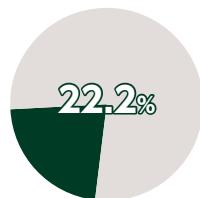
当連結会計年度においては、臨床業務における堅調な引合いに応じた人材の確保に努めるとともに、多様化する顧客ニーズに対応するため、更なる専門性と品質向上を目指した人材育成を一層強化しました。平成28年10月に、シミック株式会社に再生医療分野の臨床試験及び臨床研究に特化した再生医療臨床開発部を設立するなど、迅速かつ安全な再生医療の普及に向けたグループ横断的な支援体制の強化に取り組んでおります。

非臨床業務においては、シミックファーマサイエンス株式会社及び米国CMIC, INC.において、分析化学サービス事業の新規案件獲得に向けた営業活動を強化しました。日米でのシームレスな医薬品開発ニーズに対応するため、両社の連携を強化し、新規案件の獲得及び米国進出企業の支援体制の構築などに取り組んでおります。また、新設した試験施設において造腫瘍性試験等の安全性試験を実施するなど、再生医療関連事業の拡充を進めております。平成29年6月には、上海復星医薬（集団）股份有限公司（Fosun Pharma）グループと、中国においてジェネリック医薬品許可取得支援を行うCMIC（Suzhou）Pharmaceutical Technology Co., Ltd.を合併で設立し、平成29年9月から生物学的同等性試験等の業務を開始いたしました。

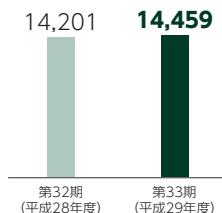
売上高及び営業利益につきましては、新規受注及び既存案件が堅調に進捗したこと等により前連結会計年度を上回りました。

## CDMO事業

### 売上高構成比



### 売上高 (単位：百万円)



(単位：百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度	増減額 (増減率)
売上高	14,201	14,459	+257 (+ 1.8%)
営業利益	293	462	+168 (+57.6%)

当事業においては、主に製薬企業の医薬品製剤開発・製造支援に係る業務を行っております。

当連結会計年度においては、製剤化検討から治験薬製造、商用生産まで医薬品製造に係る総合的なサービス提供体制の確立を進めております。価格競争力のあるコスト構造への転換に継続的に取り組んだことにより、ローコスト生産体制の構築が進展し、ジェネリック医薬品等の新規受託生産が増加いたしました。また、足利工場において、平成30年10月の稼働に向け新注射剤棟の建設を進めております。

売上高及び営業利益につきましては、新規受注及び既存案件の受託生産が堅調に進捗したこと等により、前連結会計年度を上回りました。

## CSO事業

### 売上高構成比



### 売上高 (単位：百万円)



(単位：百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度	増減額 (増減率)
売上高	7,397	6,885	△511 (△6.9%)
営業利益	452	415	△37 (△8.3%)

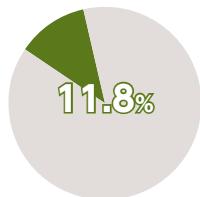
当事業においては、主に製薬企業の営業・マーケティング支援に係る業務を行っております。

当連結会計年度においては、シミック・アッシュフィールド株式会社において、MR（医薬情報担当者）派遣業務の受注力強化及び既存案件の着実な進行に取り組ましました。また、近年ニーズが高まっているメディカル・アフケア領域のサービス提供など、顧客ニーズに対応したマルチチャネルのサービス拡充を進めることにより、市場シェアの拡大を図っております。

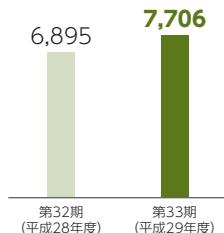
売上高及び営業利益につきましては、MR派遣業務のアウトソーシングニーズが調整局面にあることから、前連結会計年度を下回りました。

## ヘルスケア事業

### 売上高構成比



### 売上高 (単位: 百万円)



(単位: 百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度	増減額 (増減率)
売上高	6,895	7,706	+810 (+ 11.8%)
営業利益	172	988	+816 (+474.2%)

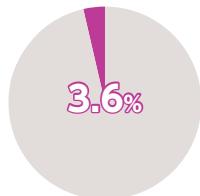
当事業においては、SMO（治験施設支援機関）業務、ヘルスケア情報サービスなど、主に医療機関や患者、一般消費者の医療や健康維持・増進のための支援業務を行っております。

当連結会計年度においては、サイトサポート・インスティテュート株式会社において、SMO業務における営業活動の一層の強化、医療機関及びアカデミアとのネットワーク拡大への取組みを通じた新規案件の獲得を推進しました。

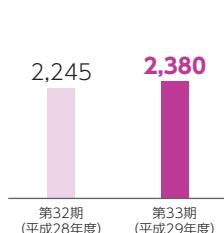
売上高につきましては、SMO業務の新規案件及び既存案件が堅調に進捗したこと等により前連結会計年度を大幅に上回りました。営業利益につきましても、プロジェクト管理の徹底とコスト削減策の実施を図るなど、経営効率化策を継続したこと等により、前連結会計年度を大幅に上回りました。

## IPM事業

### 売上高構成比



### 売上高 (単位: 百万円)



(単位: 百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度	増減額 (増減率)
売上高	2,245	2,380	+135 (+6.1%)
営業利益	△228	△627	△399 ( - )

当事業は、当社グループが保有する製造販売業等の許認可とバリューチェーンを組み合わせた新たなソリューションを製薬企業等へ提供する事業であります。現段階では、主にオーファンドラッグ（希少疾病用医薬品）や診断薬等の開発及び販売に係る業務を行っております。

オーファンドラッグ等事業においては、株式会社オーファンパシフィックが、自社開発品を含むオーファンドラッグ等を販売しております。また、製薬企業から販売移管を受けた高インスリン血性低血糖症治療薬の販売を開始するなど、IPM事業の基盤強化に取り組んでおります。

診断薬事業においては、当社グループが腎疾患の診断を目的として開発した体外診断用医薬品「ヒトL型脂肪酸結合蛋白キット」の簡易検査（Dip-test）キットの販売を平成28年10月に開始し、販路拡大及びプロモーションの強化に努めております。

また、日本に拠点のない海外製薬企業等に対し、当社グループが保有する製造販売業等の許認可とバリューチェーンを提供する新たなソリューションモデルとして、足爪用浸透補修液「ザンミーラネイル」の全国販売を行いました。

売上高につきましては、オーファンドラッグ等の販売増加等により前連結会計年度を上回りました。一方、営業利益につきましては、「ザンミーラネイル」販売に係る広告宣伝費等の販売促進費用の発生等により、前連結会計年度を下回りました。引き続き、新しいソリューション提供による事業規模拡大に向けて、活発に事業開発活動を行っております。

## [経常利益]

当連結会計年度の経常利益は3,732百万円（前連結会計年度比24.9%増）となりました。

なお、営業外収益として為替差益及び受取利息等168百万円、営業外費用として支払利息及び持分法による投資損失等332百万円を計上しております。

## [親会社株主に帰属する当期純利益]

当連結会計年度の親会社株主に帰属する当期純利益は1,550百万円（前連結会計年度比76.4%増）となりました。

なお、特別損失として貸倒引当金繰入額等463百万円、法人税等合計として1,596百万円及び非支配株主に帰属する当期純利益として121百万円をそれぞれ計上しております。

セグメントごとの売上高は次のとおりであります。

事業セグメント	売上高 (百万円)	構成比 (%)
CRO事業	34,176	52.4
CDMO事業	14,459	22.2
CSO事業	6,885	10.5
ヘルスケア事業	7,706	11.8
IPM事業	2,380	3.6
内部取引消去	△326	△0.5
合 計	65,282	100.0

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## ② 設備投資の状況

当連結会計年度中において実施いたしました企業集団の設備投資の総額は6,372百万円で、その主なものはCDMO事業における新注射剤棟建設、新規受託対応用設備他5,029百万円、CRO事業における新規受託対応用設備他869百万円であります。

## ③ 資金調達の状況

当社は、主にCDMO事業の設備資金に充てるため、取引銀行より長期借入金6,000百万円を調達いたしました。なお、当社は事業資金の効率的な調達を行うため、取引銀行3行と極度額5,000百万円のコミットメントライン契約を締結しておりますが、当該契約に基づく当連結会計年度末の借入実行残高はありません。

## ④ 事業の譲渡、吸収分割又は新設分割の状況

該当事項はありません。

## ⑤ 他の会社の事業の譲受けの状況

該当事項はありません。

## ⑥ 吸収合併又は吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況

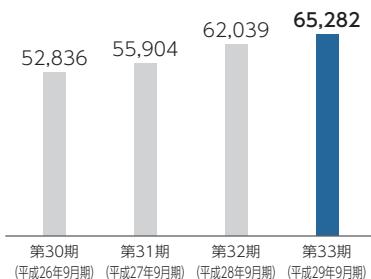
該当事項はありません。

## ⑦ 他の会社の株式その他の持分又は新株予約権等の取得又は処分の状況

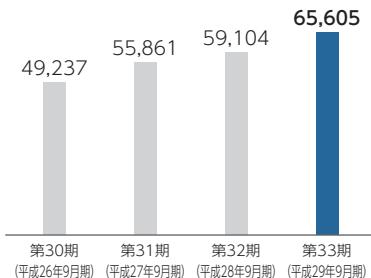
該当事項はありません。

## (2) 財産及び損益の状況

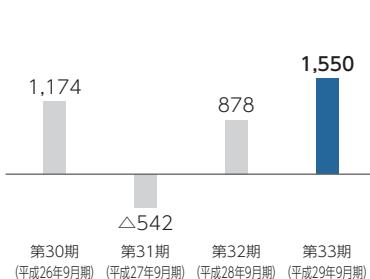
売上高 (単位：百万円)



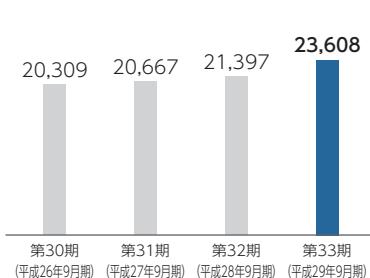
総資産 (単位：百万円)



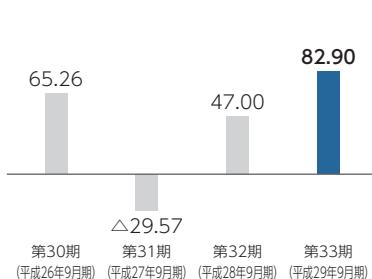
親会社株主に帰属する当期純利益 (単位：百万円)



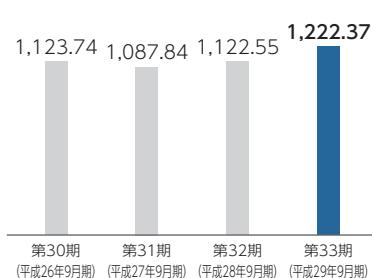
純資産 (単位：百万円)



1株当たり当期純利益 (単位：円)



1株当たり純資産額 (単位：円)



区分		第30期 (平成26年9月期)	第31期 (平成27年9月期)	第32期 (平成28年9月期)	第33期 (当連結会計年度) (平成29年9月期)
売上高	(百万円)	52,836	55,904	62,039	65,282
親会社株主に帰属する当期純利益又は当期純損失(△)	(百万円)	1,174	△542	878	1,550
1株当たり当期純利益又は当期純損失(△)	(円)	65.26	△29.57	47.00	82.90
総資産	(百万円)	49,237	55,861	59,104	65,605
純資産	(百万円)	20,309	20,667	21,397	23,608
1株当たり純資産額	(円)	1,123.74	1,087.84	1,122.55	1,222.37

(注) 1. 当社は、株式給付信託 (J-ESOP) を導入しており、当該株式給付信託が所有する当社株式については、自己株式に加算しております。  
 2. 「1株当たり当期純利益又は当期純損失」及び「1株当たり純資産額」の算定における「普通株式の期中平均株式数」及び「期末の普通株式の数」については、株式給付信託 (J-ESOP) が所有する当社株式数を自己株式数に含めております。  
 「1株当たり当期純利益又は当期純損失」及び「1株当たり純資産額」の算定上控除した当連結会計年度の当該自己株式の期中平均株式数は、218,773株であり、期末株式数は、216,028株であります。

### (3) 重要な子会社の状況

#### ① 重要な子会社等の状況

事業セグメント	会社名	資本金	当社の議決権比率	主要な事業内容
CRO事業	シミック株式会社	100百万円	100.0%	臨床業務
	シミックPMS株式会社	100百万円	100.0%	臨床業務（製造販売後調査・臨床研究）
	シミック・シフトゼロ株式会社	10百万円	60.0%	臨床業務（オンコロジー領域）
	CMIC Korea Co., Ltd.	1,300百万ウォン	100.0%	臨床業務（韓国）
	CMIC ASIA-PACIFIC, PTE. LTD.	350千米ドル	100.0%	臨床業務（シンガポール・台湾）
	CMIC (Beijing) Pharmaceutical Services Co., Ltd.	90百万円	100.0%	臨床業務（中国）
	CMIC (Beijing) Co., Ltd.	30百万円	100.0%	臨床業務（中国）
	シミックファーマサイエンス株式会社	99百万円	100.0%	非臨床業務（分析化学サービス・非臨床試験）
	CMIC, INC.	11千米ドル	100.0%	非臨床業務（分析化学サービス／米国）
	CMIC (Suzhou) Pharmaceutical Technology Co., Ltd.	20百万円	51.0%	非臨床業務（分析化学サービス／中国）
	シミックキャリア株式会社	25百万円	100.0%	医療・製薬業界向けBPO・人材サービス
CDMO事業	シミックCMO株式会社	100百万円	100.0%	医薬品等の製剤開発・製造受託
	CMIC CMO Korea Co., Ltd.	3,827百万ウォン	100.0%	医薬品等の製剤開発・製造受託／韓国
	CMIC CMO USA Corporation	1,339千米ドル	86.0%	医薬品等の製剤開発・製造受託／米国
CSO事業	シミック・アッシュフィールド株式会社	55百万円	50.01%	MR派遣及び医薬品の営業・マーケティング支援
ヘルスケア事業	サイトサポート・インスティテュート株式会社	99百万円	100.0%	SMO（治験施設支援）業務
	シミックヘルスケア株式会社	100百万円	100.0%	ヘルスケア情報サービス
	CMIC VIETNAM COMPANY LIMITED	120千米ドル	100.0%	コンサルティング業務（ベトナム）
IPM事業	株式会社オーファンパシフィック	100百万円	66.0%	オーファンドラッグ等の開発及び販売

(注) 1. 株式会社シミックBSは、平成28年10月1日付で商号をシミックキャリア株式会社に変更しております。

2. 株式会社ヘルスクリックは、平成29年4月1日付で商号をシミックヘルスケア株式会社に変更しております。

3. CMIC (Suzhou) Pharmaceutical Technology Co., Ltd.は、平成29年6月28日付で設立され、当社の連結子会社となりました。

## ② 重要な関連会社の状況

会社名	資本金	当社の議決権比率	主要な事業内容
シミックJSRバイオロジックス株式会社	90百万円	50.0%	抗体医薬品の設計と製造プロセス開発
エムディエス・シーエムジー株式会社	160百万円	24.5%	医薬品マーケティング業務

## ③ 事業年度末日における特定完全子会社の状況

- (1) 特定完全子会社の名称及び住所  
シミックCMO株式会社  
東京都港区芝浦一丁目1番1号
- (2) 当事業年度末日における特定完全子会社の株式の帳簿価額  
11,506百万円
- (3) 当事業年度末日における当社の総資産額  
45,688百万円

#### (4) 対処すべき課題

医薬品業界においては、“患者により適した医療”の提供に向けて、技術革新や産官学連携による革新的医薬品の創出が期待されています。一方、医療保険財政への影響から、薬価制度への費用対効果評価の導入が検討されるなど、医薬品産業の生産性や効率性の更なる向上が求められております。

医薬品産業に、将来を見据えた国際競争力のある産業構造への転換が求められる中、製薬企業は、イノベーションの推進と医療の質の向上に資する革新的医薬品の創出に向けて、研究開発活動を一層強化するとともに、生産性や効率性の更なる向上のために、アウトソーシングの活用を加速させるものと思われれます。

当社グループは、この変革期にある医療・製薬産業において、製薬企業の付加価値向上に貢献する当社グループ独自の事業モデルPVCの展開を通じて、持続的な成長を実現するための取組み“Project Phoenix”を進めております。

平成27年9月期に開始したProject Phoenix 1.0においては、赤字事業の解消とコスト構造改革に道筋をつけ、グループの原点である創業スピリッツを表す企業理念「CMIC'S CREED」を制定しました。平成28年9月期下期からはProject Phoenix 2.0として、医療・製薬産業の変革にスピーディに対応するため、アジャイル経営システムの構築とともに、すべてのバリューチェーンを支援する体制と当社グループが保有する製造販売業等の許認可（知的財産）とを組み合わせた新たなソリューションの提供を推進しております。

次のステージとなるProject Phoenix 3.0においては、グローバル化を促進し、デジタル情報と先端技術のヘルスケア分野への展開に取り組みます。

今後、安全で有効な医薬品をより多く利用できる環境の形成、更には疾患の予防から診断、治療に至るまで、医薬品開発で培ったノウハウと十分な経験・知識を持つ私たちだからできること、私たちにしかできない最良のサービスの提供を通じて、人々の健康維持や健康増進に広く貢献するヘルスケア分野のソリューションプロバイダーを目指し、以下の経営戦略をもってビジネス展開してまいります。

##### ① グループ総合力による事業価値の提供

- ・ Management Excellence ・ Business Development Excellence ・ Operational Excellenceの追求による迅速経営の実現
- ・ グループが保有する有形無形の資産を最大限に活用したソリューションの提供

## ② CRO事業

- ・ 抗がん剤、再生医療等製品、医療機器等、高い専門性を求められる開発ニーズへの対応
- ・ 日本・アジアの顧客の欧米市場進出（アウトバウンド）ニーズに対応するサービス強化
- ・ 臨床研究及びデータベースを活用した市販後支援ビジネスの展開

## ③ CDMO事業

- ・ 生産性と効率性を追求し、ローコスト生産体制の確立
- ・ 新技術の獲得を通じた製剤開発技術力の強化
- ・ 新注射剤棟における生産体制の確立

## ④ CSO事業

- ・ マルチチャンネルコマースソリューション（顧客に対する多様なサービスの組合せ）の強化と市場シェア拡大

## ⑤ ヘルスケア事業

- ・ 品質・コンプライアンス重視体制の維持とともに医療生産性の向上への貢献
- ・ メディカルコンシェルジュサービス等の新サービスの拡充
- ・ 「患者様中心の医療の実現」に向けたデジタルヘルス事業の構築

## ⑥ IPM (Innovative Pharma Model) 事業

- ・ シミックグループとメディパルグループの機能を革新的に活用したオーファンドラッグ（希少疾病用医薬品）の提供
- ・ アカデミアや日本の専門家と連携し、既存品のポートフォリオ拡大（適用・剤型変更）への対応
- ・ 国内・国際ネットワークを活かし、必須医薬品の安定供給に貢献するとともに、新規のオーファンドラッグの導入や、海外企業の日本市場進出支援
- ・ 腎疾患バイオマーカー(L-FABP)の市場機会の拡大

## (5) 企業集団の主要な事業セグメント (平成29年9月30日現在)

当社グループの事業セグメントにおける主たる業務内容は、次のとおりであります。

### ① CRO事業

CRO事業は、医薬品、医療機器、再生医療等製品等の開発支援に係る業務であり、当社グループの中心となる事業分野であります。

[モニタリング業務]

モニタリング業務は、臨床試験の進捗状況を調査し、臨床試験がGCP（Good Clinical Practice）に基づき関連法規や実施計画書に従って実施、記録及び報告されていることを随時確認する業務であります。

[データマネジメント業務]

データマネジメント業務は、CRA（Clinical Research Associate）が治験責任医師から入手した治験の症例報告書や、MR（Medical Representative）が市販後調査担当の医師から入手した調査票に記載された内容をコンピュータを利用してデータベース化し、統計解析処理する業務であります。

ファーマコヴィジランス業務は、開発段階又は製造販売後の医薬品等に関する安全性情報等の収集及び各国規制当局等への報告書作成など、安全性情報管理業務の支援を行う業務であります。

[薬事コンサルティング業務等]

薬事コンサルティング業務等は、医薬品開発申請書類の作成支援及び医薬品、医療機器、再生医療等製品、化粧品、特定保健用食品を含む健康食品の開発から申請、発売におけるコンサルティングサービスを行う業務であります。また、海外子会社において、アジアを中心とした臨床試験支援サービスを提供する業務であります。

[非臨床業務]

非臨床業務は、医薬品、医療機器等の安全性薬理試験、薬効薬理試験、毒性試験等を行う業務であります。また、医薬品の品質保証及び薬物動態に係る分析化学サービスを提供する業務であります。

### ② CDMO事業

製薬企業等に対し、製剤化検討から治験薬製造・商業生産まで、医薬品の製造支援及びコンサルティングに係る業務であります。

### ③ CSO事業

MR派遣やMR教育研修など、主に製薬企業の医薬品等の営業・マーケティング等を支援する業務であります。

### ④ ヘルスケア事業

治験の実施に係る業務の一部を治験実施施設から受託又は代行するSMO業務、ヘルスケア情報サービスなど、医療機関・製薬企業等に対する治験を含む医療サービスや、患者、一般消費者の健康維持・増進を支援する業務であります。

### ⑤ IPM事業

当社グループが保有する製造販売業等の許認可とバリューチェーンを組み合わせた新たなビジネスソリューションを製薬企業等へ提供する事業であります。現段階では、主にオーファンドラッグ（希少疾病用医薬品）や診断薬等の開発及び販売に係る業務を行っております。

(6) 企業集団の主要拠点等 (平成29年9月30日現在)

会社名	所在地
当社	本社 (東京都港区) 大阪支社 (大阪市)
シミック株式会社	本社 (東京都港区) 大阪支社 (大阪市)
シミックPMS株式会社	本社 (東京都港区)
シミック・シフトゼロ株式会社	本社 (東京都港区)
CMIC Korea Co., Ltd.	本社 (韓国 ソウル特別市)
CMIC ASIA-PACIFIC, PTE. LTD.	本社 (シンガポール シンガポール市) 台湾支社 (台湾 台北市)
CMIC (Beijing) Pharmaceutical Services Co., Ltd.	本社 (中国 北京市)
CMIC (Beijing) Co., Ltd.	本社 (中国 北京市)
シミックファーマサイエンス株式会社	本社 (東京都港区) シミックバイオリサーチセンター (山梨県北杜市) 大阪オフィス (大阪市)
CMIC, INC.	本社 (米国 イリノイ州 Hoffman Estates)
CMIC (Suzhou) Pharmaceutical Technology Co., Ltd.	本社 (中国 江蘇省蘇州市)
シミックキャリア株式会社	本社 (東京都港区) 九州支社 (福岡市)
シミックCMO株式会社	本社 (東京都港区) 富山事業所 (富山県射水市)
CMIC CMO Korea Co., Ltd.	本社/工場 (韓国 京畿道富川市)
CMIC CMO USA Corporation	本社/工場 (米国 ニュージャージー州クランベリー)
シミック・アッシュフィールド株式会社	本社 (東京都港区)
サイトサポート・インスティテュート株式会社	本社/首都圏東オフィス (東京都港区) 仙台オフィス (仙台市) 静岡オフィス (静岡市) 京都オフィス (京都市) 岡山オフィス (岡山市) 福岡オフィス (福岡市)
シミックヘルスケア株式会社	本社 (東京都港区)
CMIC VIETNAM COMPANY LIMITED	本社 (ベトナム ホーチミン市)
株式会社オーファンパシフィック	本社 (東京都港区)

## (7) 使用人の状況 (平成29年9月30日現在)

### ① 企業集団の使用人の状況

事業セグメント	使用人数 (名)	前連結会計年度末比増減 (名)
CRO事業	2,636 (950)	242 (73)
CDMO事業	599 (238)	19 (12)
CSO事業	513 (77)	△60 (△35)
ヘルスケア事業	764 (73)	△9 (△7)
IPM事業	43 (15)	△12 (△2)
全社 (共通)	149 (56)	△15 (0)
合 計	4,704 (1,409)	165 (41)

- (注) 1. 使用人数は就業人員であり、臨時雇用者数（契約社員、人材会社からの派遣社員等）は、（ ）内に年間の平均人員を外数で記載しております。
2. 全社（共通）として記載されている従業員数及び臨時雇用者数は、特定の事業に区分できない管理部門に所属しているものであります。
3. 当連結会計年度において、従業員数が165名、臨時雇用者数が41名それぞれ増加しておりますが、これは主としてCRO事業における業容拡大によるものであります。
4. 当連結会計年度において、シミックキャリア株式会社の報告セグメントを、CSO事業からCRO事業に、シミックホールディングス株式会社で行っているIPM事業の一部の業務をCRO事業等にそれぞれ変更しております。それに合わせて、前連結会計年度末比増減は、当該変更後の事業区別に基づいて算出しております。

### ② 当社の使用人の状況

使用人数	前事業年度末比増減	平均年齢	平均勤続年数
196 (65) 名	△13 (△2) 名	43.8歳	6.4年

- (注) 使用人数は就業人員（当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含んでおります）であり、臨時雇用者数（契約社員、人材会社からの派遣社員等）は、（ ）内に年間の平均人員を外数で記載しております

## (8) 主要な借入先の状況 (平成29年9月30日現在)

借入先	借入額 (百万円)
株式会社三井住友銀行	5,791
株式会社みずほ銀行	5,146
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,546

- (注) 当社は事業資金の効率的な調達を行うため、取引銀行3行と極度額5,000百万円のコミットメントライン契約を締結しております。  
なお、当該契約に基づく当連結会計年度末の借入実行残高はありません。

## (9) その他企業集団の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

## 2 会社の現況に関する事項

### (1) 株式の状況 (平成29年9月30日現在)

- |               |                              |
|---------------|------------------------------|
| ① 発行可能株式総数    | 46,000,000株                  |
| ② 発行済株式の総数    | 18,923,569株 (自己株式36,028株を含む) |
| ③ 株主数         | 6,364名                       |
| ④ 大株主 (上位10名) |                              |

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
株式会社アルテミス	4,022,200	21.29
株式会社キースジャパン	3,509,140	18.57
THE BANK OF NEW YORK-JASDECTREATY ACCOUNT	1,018,800	5.39
GOLDMAN, SACHS & CO.REG	651,400	3.44
PERSHING-DIV. OF DLJ SECS. CORP.	613,273	3.24
中村 和男	552,620	2.92
シミックホールディングス従業員持株会	517,128	2.73
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	412,740	2.18
GOVERNMENT OF NORWAY	360,000	1.90
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	321,500	1.70

- (注) 1. 持株比率は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。  
 2. 持株比率は、発行済の普通株式の総数から自己株式 (36,028株) を除いて計算しております。  
 3. 自己株式数については、株式給付信託 (J-ESOP) が所有する当社株式 (180,000株) は含めておりません。

### (2) 新株予約権等の状況

該当事項はありません。

### (3) 会社役員 の 状況

#### ① 取締役及び監査役の状況 (平成29年9月30日現在)

会社における地位	氏名	担当及び重要な兼職の状況
代表取締役	なかむら かずお 中村 和男	会長兼社長執行役員 CEO
代表取締役	いのうえ のぶあき 井上 伸昭	副社長執行役員 CTO
代表取締役	なかむら けいこ 中村 圭子	副社長執行役員 CRO事業CEO 国際事業推進本部長 シミック株式会社 代表取締役会長 シミック・シフトゼロ株式会社 代表取締役副社長 株式会社アルテミス 代表取締役社長
取締役	なかむら のぶお 中村 宣雄	
取締役	もちづき わたる 望月 渉	専務執行役員 CFO 内部統制・情報開示担当
取締役	まつかわ まこと 松川 誠	専務執行役員 CDMO事業CEO 事業開発担当 シミックCMO株式会社 代表取締役CEO シミック・アッシュフィールド株式会社 代表取締役
取締役	ふじえだ とおる 藤枝 徹	専務執行役員 シミック株式会社 代表取締役社長執行役員
取締役	オヴァロ・フィリップ・ アンリ	専務執行役員 株式会社オーファンパシフィック 代表取締役社長
取締役	は の よしゆき 羽野 佳之	専務執行役員 CHO 人事総務担当
取締役 (社外)	たかはし としお 高橋 俊雄	
取締役 (社外)	なかむら あきら 中村 明	株式会社メディカル・プリンシプル社 代表取締役社長 ASK HOLDINGS株式会社 取締役会長 ウェルス・マネジメント株式会社 取締役会長
取締役 (社外)	こばやし しんじ 小林 伸司	IPI株式会社 代表取締役社長
取締役 (社外)	いわさき まさる 岩崎 甫	国立大学法人山梨大学 副学長 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 プログラムオフィサー 順天堂大学医学部 客員教授
常勤監査役	たかもと てつよし 高本 哲義	
常勤監査役	なかむら ひろし 中村 紘	
監査役 (社外)	さかい しげる 酒井 繁	公認会計士
監査役 (社外)	はた けい 畑 敬	畑法律事務所 代表 立教大学大学院 講師

- (注) 1. 取締役高橋俊雄氏、中村明氏、小林伸司氏及び岩崎甫氏は社外取締役であります。
2. 監査役酒井繁氏及び畑敬氏は社外監査役であります。
3. 監査役酒井繁氏は、公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
4. 監査役畑敬氏は、弁護士として、専門的な知識を有しております。
5. 当社は、高橋俊雄氏、中村明氏、小林伸司氏、岩崎甫氏、酒井繁氏及び畑敬氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
6. 当社と取締役（業務執行取締役等である者を除く）及び監査役全員は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める最低責任限度額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該取締役（業務執行取締役等である者を除く）又は監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意かつ重大な過失がないときに限っております。

### ② 取締役及び監査役の報酬等の額

区分	支給人員 (名)	支給額 (百万円)
取締役 (うち社外取締役)	16 (5)	338 (20)
監査役 (うち社外監査役)	5 (3)	25 (7)
合 計	21	363

- (注) 1. 上記には、平成28年12月15日開催の第32回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役3名及び監査役1名を含んでおります。
2. 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
3. 取締役の報酬限度額は、平成28年12月15日開催の定時株主総会決議において年額500百万円以内（ただし、使用人分給与は含まない）と決議いただいております。
4. 監査役の報酬限度額は、平成23年12月15日開催の定時株主総会決議において年額60百万円以内と決議いただいております。
5. 取締役への支給額には、当事業年度に係る役員賞与引当金の繰入額53百万円が含まれております。

### ③ 社外役員に関する事項

#### イ. 他の法人等の重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係

取締役中村明氏は、株式会社メディカル・プリンシプル社の代表取締役社長、ASK HOLDINGS株式会社の取締役会長及びウェルス・マネジメント株式会社の取締役会長を兼務しております。当社と各兼務先との間には特別の関係はありません。

取締役小林伸司氏は、IPI株式会社の代表取締役社長を兼務しております。当社と兼務先との間には特別の関係はありません。

取締役岩崎甫氏は、国立大学法人山梨大学 副学長、国立研究開発法人日本医療研究開発機構 プログラムオフィサー、及び順天堂大学医学部 客員教授を兼務しております。当社と各兼務先との間には特別の関係はありません。

監査役畑敬氏は、畑法律事務所の代表及び立教大学大学院の講師を兼務しております。当社と各兼務先との間には特別の関係はありません。

## ロ. 当事業年度における主な活動状況

		活動状況
取締役	たかはし 高橋 としお 俊雄	当事業年度に開催された取締役会12回のすべてに出席いたしました。長年にわたって企業経営に携わり、経営者としての豊富な経験及び見識を活かし、当社の取締役会においては、議案及び審議に關し的確な発言を適宜行っております。
取締役	なかむら 中村 あきら 明	当事業年度に開催された取締役会12回のすべてに出席いたしました。長年にわたって企業経営に携わり、経営者としての豊富な経験及び見識を活かし、当社の取締役会においては、議案及び審議に關し的確な発言を適宜行っております。
取締役	こばやし 小林 しんじ 伸司	当事業年度に開催された取締役会12回のすべてに出席いたしました。長年にわたって企業経営に携わり、経営者としての豊富な経験及び見識を活かし、当社の取締役会においては、議案及び審議に關し的確な発言を適宜行っております。
取締役	いわさき 岩崎 まさる 甫	平成28年12月15日就任以降、当事業年度に開催された取締役会10回のうち9回に出席いたしました。長年にわたって医療業界に携わり、豊富な経験及び見識を活かし、当社の取締役会においては、議案及び審議に關し的確な発言を適宜行っております。
監査役	さかい 酒井 しげる 繁	当事業年度に開催された取締役会12回のうち11回、及び監査役会12回のうち11回に出席いたしました。取締役会においては、公認会計士としての専門的見地から経営判断に供する的確な意見を適宜行っております。監査役会においては、監査結果についての意見交換、監査に關する重要事項の協議を行っております。
監査役	はた 畑 けい 敬	当事業年度に開催された取締役会12回のうち11回、及び監査役会12回のうち11回に出席いたしました。取締役会においては、弁護士としての専門的見地から経営判断に供する的確な意見を適宜行っております。監査役会においては、監査結果についての意見交換、監査に關する重要事項の協議を行っております。

## (4) 会計監査人の状況

① 名称 新日本有限責任監査法人

### ② 報酬等の額

	支払額 (百万円)
当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額	49
当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	49

(注) 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

### ③ 会計監査人の報酬等の額の同意について

監査役会は、公益社団法人日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、監査実績の分析・評価、監査計画における監査時間・配員計画、会計監査人の職務遂行状況、報酬見積の相当性などを確認し、当該期の会計監査人の報酬額については、会社法第399条第1項の同意を行っております。

### ④ 非監査業務の内容

該当事項はありません。

### ⑤ 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人の職務の遂行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、会計監査人の解任又は不再任に関する議案を決定し、取締役会は、当該決定に基づき、当該議案を株主総会に提出いたします。

また、監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき監査役会が、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

### ⑥ 責任限定契約の内容の概要

該当事項はありません。

### ⑦ 過去2年間に受けた業務停止処分に関する事項

当社の会計監査人は、平成27年12月22日、金融庁から、契約の新規の締結に関する業務の停止3か月（平成28年1月1日から同年3月31日まで）の処分を受けました。

## (5) 業務の適正を確保するための体制

シミックグループは、会社法及び会社法施行規則に基づき、以下のとおり内部統制基本方針を定め、本方針に従って内部統制システムを適切に構築し運用しております。

### 1. シミックグループのコンプライアンス体制

- ①企業活動を行う上で法令を遵守し、社会倫理に従って行動するという観点から、シミックグループ全役職員が準拠すべき基本的な指針として「シミックグループ行動規範」を制定する。シミックグループの役職員は、「シミックグループ行動規範」に基づき誠実に行動することが求められ、コンプライアンス担当役員がこれを推進する。コンプライアンス意識の強化に向けた取組みの一環として、コンプライアンスハンドブック「CMIC WAY」を作成し、シミックグループの役職員に配付するとともに、定期的に役職員を対象としたコンプライアンス研修を実施する。
- ②コンプライアンス上の問題点の早期発見、対処、発生防止等を目的として、「シミックグループ従業員報告・相談窓口」を社内及び外部に設置し、シミックグループの役職員からのコンプライアンス関連の懸念事項や職場環境等の問題点について報告・相談を受け付ける。受け付けた報告・相談については、報告・相談窓口及び同窓口事務局が客観的かつ公平に調査及び対応し、問題点の早期改善及び再発防止に努める。
- ③内部監査部門は、当社及びグループ各社におけるコンプライアンスの徹底状況を監視する。

### 2. シミックグループのリスクマネジメント体制

- ①シミックグループにおけるリスク管理及び経営危機に直面したときの対応の観点から、「シミックグループリスク管理規程」を制定する。同規程に基づき、リスク管理担当役員がリスクマネジメント（リスク管理）及びクライシスマネジメント（危機管理）を統括するとともに、グループ横断的に業務運営上のリスク管理を推進する。
- ②リスク管理及びインシデント管理は、当社及びグループ各社単位で情報の集約、分析及び原因究明を行い、迅速な情報伝達及び適切な対応を行う。重要な案件については、リスク管理担当役員にエスカレーションし、リスク管理担当役員は必要な対応を指示する。
- ③災害その他により経営危機が発生した場合には、「グループ緊急対策本部」を設置し対応を行う。

### 3. シミックグループの取締役の職務執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ①当社は、取締役会を月1回定時に開催するほか、必要に応じて適宜臨時に開催する。コーポレート・ガバナンスの強化及び執行責任の明確化による業務管理体制の強化を目的として、執行役員制度を採用する。取締役及び執行役員によって構成される定例会議を毎月開催し、業務執行に係る戦略について充分な審議を行った上で、執行決定を行うことにより、取締役の職務執行の効率化を確保する。

- ②当社及びグループ各社の目標の明確な付与及び採算管理の徹底を通じた市場競争力の強化を図るために、目標値を年度予算として策定し、取締役会及び定例会議における業務執行報告により、業務の運営及び進捗状況の管理を行う。
- ③当社は、持株会社として、グループ各社との間で経営管理及び支援に関する契約を締結し、グループ各社への経営指導及び管理並びに財務・人事・総務・法務等のサポートを行うことにより、グループ各社の取締役の職務執行の効率化を確保する。
- ④社内規程に基づく職務権限及び職務分掌により、適正かつ効率的に業務を行う。

#### 4. シミックグループのグループガバナンス体制

- ①当社は、持株会社として、全体最適の観点からグループ各社に必要な経営資源の配分を行うとともに、グループ各社の業務運営を管理・監督し、グループ各社の業務の適正を確保するための体制整備を行う。
- ②グループ各社に対する管理基準を明確にし、相互の経営効率の向上に資するために「関係会社管理規程」を定め、これに基づき、グループ各社との間で「マネジメント合意書」を締結する。
- ③グループ各社は、自社の事業の経過、財産の状況及びその他「マネジメント合意書」に定める重要事項について、定期的に当社へ報告し情報を共有するとともに、重要事項を行う場合には、その意思決定に先立ち、当社の担当部署に報告・協議を行うとともに、所定の承認を受ける。
- ④当社は、グループ各社に取締役及び監査役を派遣し、シミックグループ全体のガバナンスの向上に努める。

#### 5. 取締役の職務執行に係る情報の保存及び管理

取締役の重要な意思決定又は取締役に対する報告に係る情報に関しては、「シミックグループ情報管理基本規程」及び「文書管理規程」に従い、適切に保存及び管理を行う。取締役及び監査役は、これらの情報を適宜閲覧することができる。

#### 6. 監査役の監査の実効性を確保するための体制

- ①監査役が、監査役を補助すべき職員を必要とする場合には、必要な人員を配置する。監査役を補助する職員の取締役からの独立性を確保するため、その職員の人事異動、人事評価及び懲戒に関しては、監査役の同意を得た上で行う。監査役を補助する職員への指揮命令者は監査役とし、監査役を補助する職員は、他の業務を兼務することができない。
- ②シミックグループの役職員は、定期的に、また監査役から求めがあったときはその都度、事業及び内部統制の状況等の報告を行い、内部監査部門は、内部監査の結果等を報告する。シミックグループの役職員は、重大な法令若しくは定款違反及び不正行為の事実又は会社に著しい損害を及ぼす事実又はそのおそれのある事実を知ったときは、速やかに監査役へ報告する。当社は、内部通報制度の適用対象にグループ各社を含め、シミックグループにおける法令、定款又は社内規程に違反する重大な事実その他コンプライアンス上の重大な問題に係

る通報について、監査役への適切な報告体制を確保する。当社及びグループ各社は、これらの報告をした役職員に対して、報告をしたことを理由として、不利益な取扱いを行わない。

- ③監査役が職務執行について生じる費用の前払又は償還等の請求をしたときは、監査役の職務の執行に明らかに必要ないと認められる場合を除き、その費用を負担する。
- ④監査役は、必要に応じて役職員に対してヒアリングを実施するとともに、代表取締役との定期的な会合、内部監査部門及び会計監査人との情報交換を実施する。

## 7. 反社会的勢力の排除に向けた基本的な考え方

「シミックグループ行動規範」に基づき、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体との関係を排除するとともに、会社をあげて断固として立ち向かう。また、これらの活動を助長するような行為はいっさい行わない。

平素より警察やリスク管理の専門団体からの情報収集・意見交換を行い、有事には協力して速やかに反社会的勢力及び団体に対処する。

## 8. 財務報告の適正性を確保するための体制

当社及び当社の属する企業集団に係る財務報告が法令等に従って適正に作成されるために、「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準」及び「財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準」に準拠した内部統制の整備、運用及び評価を行う。

## (6) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当社では、事業の継続・安定的発展を確保していくことを目的とし、コンプライアンスの推進、リスクマネジメントの強化に取り組んでおります。これらをはじめ、業務の適正を確保するための体制の当期における運用状況の概要は、以下のとおりです。

### 1. コンプライアンス体制

「コンプライアンス・プログラム」に基づき、每期「CMIC WAY」を教材とした入社時の導入研修と全役職員を対象とした年1回の継続研修を実施しております。当期は、従来のコンプライアンス全般と、個人情報保護、情報セキュリティに、クオリティマネジメントに関する継続研修を加えた四分野を受講必須としております。これら研修の成果としてコンプライアンス意識の向上を確認するため、全役職員を対象とするコンプライアンス・アンケートも每期実施しております。また、「従業員報告・相談窓口」では、コンプライアンスに関する懸念事項や業務上の疑問、職場環境に関する相談などを幅広く受け付け、問題の早期発見と改善に努めております。

## 2. リスクマネジメント体制

「リスク管理プログラム」に基づき、毎期グループ各社、各組織においてリスク評価と対応策の策定を行っております。また報告されたインシデントを毎月分析し、発生事象のリスク評価を行った上で再発防止のために是正措置と予防措置を講じております。当期は、当社グループを取り巻く重要なリスク項目の一部見直しを実施いたしました。情報セキュリティの面では、情報漏えい防止に関するシステムを強化するとともに、サイバー攻撃への対応力向上を目的として、2回の演習を実施いたしました。

## 3. グループガバナンス体制

関係会社管理規程に基づき、当社とグループ各社の間で毎期「マネジメント合意書」を取り交わしております。グループ各社は、同合意書に基づき、事業の経過、財産の状況等を毎月当社に報告するとともに、同合意書所定の重要事項については、当社の事前承認を得ております。

また、グループ各社には、当社の執行役員等を取締役、監査役として派遣しており、グループガバナンスを一層強化しております。

## 4. 財務報告の適正性を確保するための体制

当社では「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準」及び「財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準」に準拠した「財務報告に係る内部統制の整備・運用及び評価の基本方針」を策定しております。

当社及び当社の属する企業集団の財務報告に係る内部統制は、同基本方針に基づき整備、運用されており、その有効性評価については、毎期「財務報告に係る内部統制の評価に関する基本計画書」に基づき実施しております。

## 5. 監査役の監査の実効性を確保するための体制

当社では、基本方針に基づき定期的に、また監査役から求めがあったときはその都度、事業及び内部統制の状況等につき報告を行っており、代表取締役との定期的な会合、重要会議への継続的な出席、会計監査人との定期情報交換と併せ、監査役の監査の実効性を確保しております。監査役への定期報告は、財務、人事、リスク管理、経営企画等管理部門を管掌する執行役員により四半期ごとに行われており、内部監査部門からは毎月の報告がなされるとともに、グループガバナンス強化の観点から、監査役と子会社監査役との間で四半期ごとの定期的な情報共有機会を設けております。

## 6. 内部監査の実施について

内部監査計画に基づき、組織監査、業務監査及び関係会社監査を実施し、コンプライアンスの徹底、リスク管理、グループガバナンス、情報管理等の観点からそれらの体制及び運用状況を監視しております。当期は、当社及びグループ各社の業務運営組織等に対して、14件の内部監査を実施いたしました。

## (7) 剰余金の配当等の決定に関する方針

当社は、株主の皆様への利益還元を経営上の重要政策の一つと位置付け、収益力向上や事業基盤強化のための内部留保を確保しつつ、業績に応じた配当を実施することを基本方針とし、連結配当性向の目標を30%とすると同時に継続的かつ安定的な配当を実施いたします。なお、安定的な配当につきましては、当面、年間配当金の下限を10円といたします。

内部留保資金の使途につきましては、経営環境の変化に対応し得る企業体質の強化を図るとともに、持続的な成長を実現するために設備投資や開発投資などに活用していく所存です。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、その決定機関については「剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めのある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議によって定める」旨定款に定めております。

# 連結計算書類

## 連結貸借対照表 (平成29年9月30日現在)

(単位：百万円)

科目	金額
<b>資産の部</b>	
<b>流動資産</b>	<b>27,341</b>
現金及び預金	4,947
受取手形及び売掛金	12,989
商品及び製品	479
仕掛品	3,360
原材料及び貯蔵品	1,603
繰延税金資産	1,596
その他	2,376
貸倒引当金	△12
<b>固定資産</b>	<b>38,264</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>28,589</b>
建物及び構築物	10,850
機械装置及び運搬具	5,895
工具、器具及び備品	1,115
土地	6,160
リース資産	430
建設仮勘定	4,136
<b>無形固定資産</b>	<b>1,830</b>
のれん	737
その他	1,092
<b>投資その他の資産</b>	<b>7,844</b>
投資有価証券	2,878
敷金及び保証金	1,638
繰延税金資産	1,872
その他	2,057
貸倒引当金	△603
<b>資産合計</b>	<b>65,605</b>

科目	金額
<b>負債の部</b>	
<b>流動負債</b>	<b>20,873</b>
支払手形及び買掛金	1,034
短期借入金	1,050
1年以内返済予定の長期借入金	2,918
コマーシャル・ペーパー	3,000
未払金	4,566
未払費用	1,019
未払法人税等	1,027
前受金	1,159
賞与引当金	2,317
役員賞与引当金	53
受注損失引当金	568
その他	2,158
<b>固定負債</b>	<b>21,124</b>
長期借入金	11,930
繰延税金負債	79
退職給付に係る負債	7,068
資産除去債務	416
その他	1,629
<b>負債合計</b>	<b>41,997</b>
<b>純資産の部</b>	
<b>株主資本</b>	<b>22,389</b>
資本金	3,087
資本剰余金	7,715
利益剰余金	11,847
自己株式	△261
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>478</b>
その他有価証券評価差額金	663
為替換算調整勘定	15
退職給付に係る調整累計額	△200
<b>非支配株主持分</b>	<b>740</b>
<b>純資産合計</b>	<b>23,608</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>65,605</b>

## 連結損益計算書 (平成28年10月1日から平成29年9月30日まで)

(単位:百万円)

科目	金額
売上高	65,282
売上原価	51,044
売上総利益	14,237
販売費及び一般管理費	10,340
営業利益	3,897
営業外収益	168
受取利息	16
為替差益	96
受取手数料	4
受取賃貸料	8
助成金収入	1
その他	41
営業外費用	332
支払利息	121
持分法による投資損失	147
その他	63
経常利益	3,732
特別損失	463
固定資産売却損	27
固定資産除却損	125
貸倒引当金繰入額	310
税金等調整前当期純利益	3,269
法人税、住民税及び事業税	2,111
法人税等調整額	△515
当期純利益	1,672
非支配株主に帰属する当期純利益	121
親会社株主に帰属する当期純利益	1,550

## 連結株主資本等変動計算書

(平成28年10月1日から平成29年9月30日まで)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	3,087	7,715	10,596	△265	21,134
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			△207		△207
剰余金の配当(中間配当)			△94		△94
親会社株主に帰属する 当期純利益			1,550		1,550
自己株式の取得				△0	△0
自己株式の処分				4	4
連結範囲の変動			2		2
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計	-	-	1,250	4	1,254
当期末残高	3,087	7,715	11,847	△261	22,389

	その他の包括利益累計額				非支配株主 持分	純資産合計	
	その他有価証券 評価差額金	為替 調整	換算 勘定	退職給付に係る 調整累計額			その他の包括利益 累計額合計
当期首残高	414	△143		△409	△138	401	21,397
連結会計年度中の変動額							
剰余金の配当							△207
剰余金の配当(中間配当)							△94
親会社株主に帰属する 当期純利益							1,550
自己株式の取得							△0
自己株式の処分							4
連結範囲の変動							2
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	248		158	209	616	339	956
連結会計年度中の変動額合計	248		158	209	616	339	2,210
当期末残高	663		15	△200	478	740	23,608

# 計算書類

## 貸借対照表 (平成29年9月30日現在)

(単位：百万円)

科目	金額
<b>資産の部</b>	
<b>流動資産</b>	<b>11,857</b>
現金及び預金	919
売掛金	43
製品	20
仕掛品	3
貯蔵品	6
前払費用	280
繰延税金資産	52
短期貸付金	35
関係会社短期貸付金	7,830
未収入金	2,569
その他	100
貸倒引当金	△4
<b>固定資産</b>	<b>33,830</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>1,363</b>
建物	1,074
工具、器具及び備品	150
リース資産	131
その他	6
<b>無形固定資産</b>	<b>615</b>
商標権	3
ソフトウェア	602
その他	8
<b>投資その他の資産</b>	<b>31,852</b>
投資有価証券	2,772
関係会社株式	21,062
関係会社出資金	205
関係会社長期貸付金	8,407
繰延税金資産	119
敷金及び保証金	1,385
その他	192
貸倒引当金	△2,292
<b>資産合計</b>	<b>45,688</b>

科目	金額
<b>負債の部</b>	
<b>流動負債</b>	<b>18,263</b>
短期借入金	300
1年以内返済予定の長期借入金	2,769
関係会社短期借入金	10,519
コマーシャル・ペーパー	3,000
リース債務	45
未払金	691
未払費用	59
未払法人税等	496
賞与引当金	171
役員賞与引当金	53
その他	156
<b>固定負債</b>	<b>13,400</b>
長期借入金	11,795
リース債務	98
退職給付引当金	624
関係会社損失引当金	477
資産除去債務	377
長期未払金	25
その他	1
<b>負債合計</b>	<b>31,663</b>
<b>純資産の部</b>	
<b>株主資本</b>	<b>13,361</b>
<b>資本金</b>	<b>3,087</b>
<b>資本剰余金</b>	<b>7,715</b>
資本準備金	7,655
その他資本剰余金	60
<b>利益剰余金</b>	<b>2,820</b>
利益準備金	17
その他利益剰余金	2,802
繰越利益剰余金	2,802
<b>自己株式</b>	<b>△261</b>
<b>評価・換算差額等</b>	<b>663</b>
その他有価証券評価差額金	663
<b>純資産合計</b>	<b>14,024</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>45,688</b>

## 損益計算書 (平成28年10月1日から平成29年9月30日まで)

(単位：百万円)

科目	金額
<b>営業収益</b>	<b>4,139</b>
関係会社配当金	1,202
経営指導料	2,538
売上高	398
<b>売上原価</b>	<b>310</b>
<b>売上総利益</b>	<b>3,828</b>
<b>販売費及び一般管理費</b>	<b>3,366</b>
<b>営業利益</b>	<b>461</b>
<b>営業外収益</b>	<b>318</b>
受取利息	249
為替差益	63
その他	4
<b>営業外費用</b>	<b>156</b>
支払利息	121
その他	35
<b>経常利益</b>	<b>623</b>
<b>特別利益</b>	<b>226</b>
関係会社損失引当金戻入額	103
関係会社貸倒引当金戻入額	123
<b>特別損失</b>	<b>896</b>
関係会社株式評価損	125
関係会社損失引当金繰入額	83
関係会社貸倒引当金繰入額	687
<b>税引前当期純損失(△)</b>	<b>△46</b>
法人税、住民税及び事業税	△96
法人税等調整額	△5
<b>当期純利益</b>	<b>55</b>

## 株主資本等変動計算書 (平成28年10月1日から平成29年9月30日まで)

(単位：百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金合 計	利益準備金	その他利益 剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金 合 計
当期首残高	3,087	7,655	60	7,715	17	3,049	3,067
事業年度中の変動額							
剰余金の配当						△207	△207
剰余金の配当 (中間配当)						△94	△94
当期純利益						55	55
自己株式の取得							
自己株式の処分							
株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額 (純額)							
事業年度中の変動額合計	-	-	-	-	-	△247	△247
当期末残高	3,087	7,655	60	7,715	17	2,802	2,820

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△265	13,604	414	414	14,018
事業年度中の変動額					
剰余金の配当		△207			△207
剰余金の配当 (中間配当)		△94			△94
当期純利益		55			55
自己株式の取得	△0	△0			△0
自己株式の処分	4	4			4
株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額 (純額)			248	248	248
事業年度中の変動額合計	4	△242	248	248	5
当期末残高	△261	13,361	663	663	14,024

# 監査報告

## 連結計算書類に係る会計監査報告

### 独立監査人の監査報告書

平成29年11月13日

シミックホールディングス株式会社  
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	千葉 達也 ㊞
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	北本 佳永子 ㊞

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、シミックホールディングス株式会社の平成28年10月1日から平成29年9月30日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

#### 連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、シミックホールディングス株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

平成29年11月13日

シミックホールディングス株式会社  
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	千葉 達也 ㊞
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	北本 佳永子 ㊞

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、シミックホールディングス株式会社の平成28年10月1日から平成29年9月30日までの第33期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

### 計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

## 監査役会の監査報告

### 監 査 報 告 書

当監査役会は、平成28年10月1日から平成29年9月30日までの第33期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、監査計画等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の実施基準に準拠し、監査の方針、監査計画等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施いたしました。
  - ①取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
  - ②事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制、その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその整備及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
  - ③会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ①事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ②取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成29年11月14日

シミックホールディングス株式会社 監査役会

常勤監査役	高本 哲義 ㊞
常勤監査役	中村 紘 ㊞
社外監査役	酒井 繁 ㊞
社外監査役	畑 敬 ㊞

以 上







変えていく。変わらない志を胸に。

## 私たちの決意

一度しかない人生を、年齢や性別、  
人種に関わらず、誰もがその人らしくまっとうしていくために、  
ヘルスケア分野に革新をもたらすことを、  
シミックグループの志とする。

まばゆい成長力を開花させる幼年でも、  
人生を成熟させていく老年でも、今この瞬間を生きようとする願いは、  
どれも等しく尊い。そのすべてをひとつたりとも見過ごすことなく、  
正面から受けとめていきたい。

そのために私たちは、いついかなるときも  
より良い未来を求める挑戦者でいたい。  
そして、自己を変革し、新たな視点を獲得することで、  
自らのゆるぎない情熱を価値に変えて、  
人や社会に提供し続けていく。

## W&3C

シミックカルチャー「WELLBEING」と、それを実現するための3C



## 株主総会会場ご案内図

会場

東京都港区白金台一丁目1番1号  
八芳園 本館1階 ジュール  
電話 03-3443-3111 (代表)

交通

地下鉄 | <南北線・三田線> 白金台駅下車50m (2番出口より徒歩3分)



※駐車場の用意はいたしておりませんので、お車での来場はご遠慮くださいますようお願い申し上げます。

